

3月14日(月)

## 野生の王国

聖書朗読 ヨブ 38:39～39:18

あなたは岩間の野やぎが子を産む時を知っているか。

ヨブ 39:1

大学3年生のときに取った動物学の授業で、150の異なる生物種を集め、それぞれ識別するという大きなプロジェクトがありました。収集する生物は、湖沼に生息するヒドラから化石、さそり、蜘蛛、へび、サンショウウオ、トカゲなどなんでもよいのです。私はこの作業をしながら深い感動を覚えました。180万種もの生物の断片を目の前にし、神の造られた動物の王国の素晴らしさを改めて実感させられたのです。

この経験にはとても驚嘆させられましたが、神がヨブを導かれた広大無限な世界と比べれば、このような経験は色あせてしまうほどです。ヨブは、野やぎ、鹿、獅子、野ろば、だちょう、軍馬(38:39～39:18)を目の前にし、その旅は、最後はジュラシックパークのように、河馬(40:15～24)とレビヤタン(41:1～34)に遭遇して終わります。

ヨブがこうして神の被造物に遭遇させられたことは、激しい苦しみの中であって、人生を改めて見直すための、ある種のショック療法だったかもしれません。トーマス・マンの古典的讃美歌を変えると、こんな風に言うことができるかもしれません。「この地上で癒されない悲しみは、この地上にはない。」私たちが苦しみに遭うとき、神の被造物とともに過ごすことは、人生を新たに見つめなおすセラピーとなるのではないのでしょうか。でもそれは、もし私たちがそれらに目を向ける意識を持ち、喜んで時を過ごしたいと思ったなら、そうなるのでしょう。

讃美歌 90

祈り 親愛なる神様。驚くべき美しいあなた様の被造物を感謝します。身の回りの道具、携帯電話など脇へ置いて、あなたの造られた森や湿地、砂漠をゆっくり歩き、驚きを覚えつつ、あなたを愛し称えたいという思いに浸らせてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

デイブ・ブランド  
テネシー州 メンフィス

## 今日の力

2016年3月14日～3月20日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月15日(火)

## 探す者は誰でも見出す

聖書朗読 詩篇 9:1~10

主はいつくしみ深い。主を待ち望む者、主を求めるたましいに。 哀歌 3:25

この聖書朗読箇所最後の1節は、とても重要です。私たちが神を尋ね求めるとき何を見出すのか。ダビデは、神が多くの奇しき御業（1節）をなしてくださったことを覚え、そのような奇しき御業を他の者に語り告げ、神を褒め称えること（2節）がいかに素晴らしいものと述べています。ダビデは特に、自分の敵をつまずかせ（3~4節）、悪者の町を永遠の廃墟とされ、悪を滅ぼされたこと（5~6節）について、神を褒め称えています。

ダビデが神を尋ね求めたとき、神がさばきのためにご自身の王座を堅く立てられたこと、また、神のさばきは義であり公正であることも知ることとなりました。さらに、記憶さえ消え失せてしまうような悪者や彼らの町（6~7節）のようではなく、神はとこしえであられ、虐げられた者のとりで、苦しむ時のとりでとなってくださり（9節）、究極的には、神が私たちの拠り頼むべきお方であると気付かされます。

このことは、使徒17章で、使徒パウロがアテネ伝道の際に神を見出したのと同じではないでしょうか。パウロは、神が、ご自身を求め見出すようにと人々に願っておられると言っています。『神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません』（17:27）。感謝なことに、このことは今も真実なのです。これまでそう実感したことがありますか。

讃美歌 262

祈り 永久であられるお父様。すべての歩みであなたとあなたの道を尋ね求めさせてください。あなたが傍におられ、見出すようにと願っておられることを覚えます。そして、イエス様にあって、あなた様のご栄光を見ることが出来ることを覚えます。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ロン・グズマン  
テキサス州 ラボック

3月16日(水)

## 神は苦しんでいる者のそばに

聖書朗読 詩篇 34:18~22

主は心の打ち砕かれた者を癒し、彼らの傷を包む。 詩篇 147:3

私の席の向かいに座ったある女性。その女性の目には涙が溢れていました。彼女は静かに、でもきっぱりとこう言いました。「いつも私のそばにいてくださった」。彼女は神のことを言っていたのです。天の御国におられる彼女のお父様のことです。人生でどれほどの苦しみに遭い失望することがあっても、離婚や健康上の問題など、どんなことがあっても、彼女は、神が決して自分を離れないと確信していたのです。私はその信仰に深く心動かされました。

聖書は、私たちが苦しみ zu 遭うとき、神がそばにおられるということを確信させてくれるものです。残念ながら人間の場合は、苦しい時、必ずしもそばには居てくれるとは限らないかもしれません。家族や頼りにしたい人たちでさえ、私たちが苦しんでいるとき、期待に応えてくれないこともあるでしょう。そうした周囲の人たちは、自分は力になれないと思っているかもしれませんし、私たちの苦闘している姿や痛み zu 恐れを抱いているのかもしれません。また、悲しいことですが、心が痛んでいる者に憐れみを示す優しい心さえ持ち合わせていない人もいます。

けれども聖書には、神が決して私たちを離れず、また、私たちを捨てない（へブル13:5）とあります。神は、私たちの苦しみにおののいたりなどされません。私たちの叫びに答え、そばに引き寄せてくださいます。神は私たちの心を知り、悲しみを理解しておられます。神の愛を信頼できますか。神が私たちを御腕に抱いてくださることを思い描くことができますか。一人ではないとささやかれるのが聞こえますか。

讃美歌 532

祈り 愛するお父様。私が苦しむときどうか哀れんでください。あなたがいつもそばにおられ、決して私を挫かれることがないと信じることができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ロバート・P・リー  
コロラド州 オーロラ

3月17日(木)

## 困難な日々

聖書朗読 詩篇 51:1~17

あなたの救いの喜びを、私に返し、喜んで仕える霊が、私をささえますように。

詩篇 51:12

泣き声が私たちの小さな教会中に響き渡りました。3歳になる孫娘が走って来て母親の腕に飛び込みました。泣きじゃくっていましたが、何を言っているかは聞き取ることができました。彼女はこう言いました。「大変な1日だったの」。すぐそばに居た皆さんは、くすくすと笑っていましたが、3歳の子にとって大変な1日とはどんなものだったのでしょうか。

今日の聖書箇所は、ダビデが極めて困難な日々を過ごした後の言葉です。預言者ナタンは、非常に巧みなたとえで、ダビデがシバテ・シェバと犯した姦淫、そして彼女の夫を戦死させ、その事実を隠そうとしたという罪に面と向き合わせようとしました。ダビデは最後には、自分の犯した罪による結果に向き合うこととなります。悔い改めと赦しを乞う祈りが、今日の箇所に表れています。

私達もみな困難な日々を過ごしていますから、ダビデと同じように、喜びが消え去ってしまうことがあるでしょう。ダビデは悲しみに打ちひしがれ、罪によって彼の喜びが奪い去られたこと、そしてその喜びとは神との交わりにあったということに気付かされます。そして、救いの喜びを回復していただけるよう、請い願うのでした。

パウロは私たちに『主にあって喜ぶ』（ペリピ4:4）ことを思い出させてくれます。主にあってこそ喜びがあるのです。困難な日々はやって来てはやがて過ぎ去りますが、イエス様にある神との交わりのゆえに、喜びがあるのです。

讃美歌 112

祈り 主よ。救いに目を向け、あなたとのお交わりを中心として歩むとき、困難な時であっても、どうか喜びで溢れさせてくださいますように。

喜びのために苦しみをも耐えられたイエス様のお名前によって。アーメン。

ブルース・M・ヘンダーソン

ネバダ州 カーソンシティ

3月18日(金)

## 岩 (The Rock)

聖書朗読 詩篇 71:1~8

私の住まいの岩となり、強いとりでとなって、私を救ってください。あなたこそ私の巖、私のとりでです。

詩篇 71:3

ダビデ王は、波乱万丈の人生を送った人物です。青年の頃には、巨人ゴリアテに挑み、若くしてサウル王の称賛を受け、そして、その同じ王によって命を狙われ逃亡を余儀なくされることとなります。サウル王の息子ヨナタンと結ばれた友情とミカエルとの婚姻関係は、サウル王との対立によって影を落とすこととなります。さらに、重大な罪を犯し、子を失います。また自分の息子にさえ王座を狙われます。ダビデは詩篇の中で、しばしば敵について語り、神に助けと義を求めています。詩篇71篇では、神に、私の住まいの岩となり、強いとりでとなって、私を救ってくださいと嘆願しています。

岩(rocks)は、ダビデの人生で重要な役割を果たしています。ゴリアテを打ち負かしたのは5つの小さな石、サウル王から逃れて身を隠していたのも岩山の洞穴であったし、イスラエルの町を眺めたのも岩山の上からでした。ダビデにとって岩、巖、石とは、安全、安心を象徴するものだったのではないのでしょうか。ダビデにとって神は、究極の巖、避け所、贖い主、救い主だったのです。

私たちは王ではありませんが、こうした苦難、衝突、対立を理解することができるでしょう。私たちにも避け所、そして、救い、贖いが必要です。神が私たちにとっても巖であられることはなんと素晴らしいことでしょう。

讃美歌 260

祈り お父様。私たちの岩となってくださり感謝します。ダビデのことばを借りれば、私たちの口はあなたへの讃美で満たされ、私たちは、あなたの栄光を日々言い表します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジョイス・ハーディン

テキサス州 オースティン

3月19日(土)

## 火の明かり

聖書朗読

あなたがたは、世界の光です。やまの上にある町は隠れる事ができません。

マタイ 5:14

夕日はついに地平線に沈みました。その残る輝きを空いっぱいに放ちながら。海では潮が満ち海辺に打ち寄せる波の音がさらに大きく聞こえます。砂浜のあちらこちらで、キャンプファイヤーの火が瞬いていました。

私たちは、冷たい風から逃れようと、砂浜で焚火をおこし、その火で暖をとっていました。

近くに、小さな子どもたちのいる2組の家族がおりましたが、彼らはひそかに灯っている焚き火の残り火の回りに集まり、何とか大きな火をおこそうとしていました。それを見ていた私の嫁が立ち上がって、暗闇を通りその家族のところへ向かいました。

間もなく、小さな家族の群れが、私たちの焚き火に加わりました。彼らの母国語は英語ではありませんでしたが、自己紹介を一通りし、お喋りをして過ごし、お互いのことを少し知ることができました。やがて私たちは帰る時間になったので、彼らを後にしました。焚き火用の残りの炭と煌めく炎とそして、少しの愛をそこへ残して。

このように、計画的に準備したわけでもなく、周囲の人に手を差し伸べたとき、詩篇98篇のみことばが鮮明に浮かんできました。『全地よ。主に喜び叫べ。』今日、あなたの元へ誰かを導き、喜びを分かち合いましょ。主は奇しき御業をなしてくださったのだから。

讃美歌 第二編 17

祈り 天のお父様。周りにいる誰もが、イエス様から命を与えられた者なのだと私たちが思えるようにしてください。あなたの被造物を見て喜びを見出し、その喜びを、ためらうことなく、周囲の人々と分かち合うことが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィリアム・T・マッカウガン  
オレゴン州 フィロマス

3月20日(日)

## 偉大なる神

聖書朗読 詩篇 104:1~14

愚かな者は心の中で、「神はいない」と言っている。

詩篇 14:1

皆さんはグランドキャニオンを見たことがありますか。真つ暗な闇夜の空をじっと見つめてみたことがありますか。アラスカの奇観やコロラドの壮大な山の頂を見たことがあるでしょうか。詩篇の著者は今日の聖書箇所では神をどのように叙述しているでしょう。このような暗喩で表現しています。『あなたは光を衣のように着』、『雲をご自分の車とし、風の翼に乗って歩かれます』、『風をご自分の使いとし、焼き尽くす火をご自分の召使いとされます』と。詩篇の著者は、神がおられるということをただ示そうとしたのではなく、神の偉大さに対する自らの深い感動を表現しているのです。

私は中央アフリカで、真つ暗な闇夜にキャンプファイヤーをした時のことを覚えています。キャンプファイヤーの火以外に灯りは全くありませんから、空に瞬く数えきれないほどの星を見ることが出来るのです。それは、灯りの多い都会では経験できないものです。この経験は神の偉大な被造物を改めて覚えるものでした。神は、みことばにだけでなく、大自然の中にもご自身を現してくださっています。なんと感謝なことでしょう。

讃美歌 第二編 144

祈り 親愛なる、私たちの造り主であられるお父様。あなたの御手の業を見、あなたの偉大さと力を認めるとき、あなたの子と呼ばれることに、謙虚な思いとなります。私たちが救われたのは、あなたの大きな慈しみ、愛、恵みによるのだということを決して忘れることがないようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

H・グレン・ボイド

アーカンソー州 サーシー